

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部経営工学科	職名 准教授	氏名 細川 修二	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
教科書の作成		2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：Mデザイン1) 当該科目の講義用に教科書を作成した。		
紙引張り，ゴム曲げ試験装置の作成		2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：Mデザイン1) 当該科目の授業に使用する理解しやすい小型の紙引張り試験およびゴムの曲げ試験を行う装置を作成した。		
教科書と試料の作成		2009年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：Mデザイン1) 当該科目の講義用に教科書を作成し，授業の理解をしやすくするために，ゴムの曲げ試験用および紙の切欠き付引張り試験用の試料をそれぞれ作成した。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2008年前期授業評価アンケート結果		2008年 9月 ～現在に至る	(授業科目：Mデザイン1) 「授業に対する興味関心及び教員に熱意を感じた」という評価科目で学部での平均値を上回る評価を得た。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					

その他					
回転曲げによるねじのゆるみに関する研究	共著	2010年 9月	日本機械学会2010年度年次大会講演論文集4	鈴木洋平、細川修二	131-132頁
熱履歴による9Al-2Zn-2Caマグネシウム合金ボルトの軸力への影響	共著	2010年 9月	日本機械学会2010年度年次大会講演論文集4	福田憲治、山中茂、日比玄機、森岡亮治郎、滝川順庸、細川修二	135-136頁
高強度耐熱マグネシウム合金ボルトの疲労およびゆるみ特性	共著	2010年 9月	日本機械学会2010年度年次大会講演論文集4	日比玄機、山中茂、細川修二	137-138頁
高圧力で高荷重下での摩擦試験機	単著	2011年11月	日本ねじ研究協会誌42(11)		320-324頁
ねじ締結体の回転曲げゆるみについて	共著	2012年 9月	日本機械学会2012年度年次大会CD-ROM論文集No12-1	高橋奨、細川修二	131-132頁
潤滑剤と塗膜が小ねじのゆるみに及ぼす影響	共著	2013年 9月	日本機械学会2013年度年次大会講演論文集	熊倉進、枝並隆太、細川修二	
金属ガラスボルトの締結特性とゆるみ評価	共著	2013年 9月	日本機械学会2013年度年次大会	山中茂、日比玄機、細川修二	
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
		個人研究 ねじの締付け特性に関する研究			
1971年～現在に至る		日本機械学会(国内学会)会員			
1971年 4月～現在に至る		日本機学会 会員			
1979年 2月～2013年 3月		精密学会〔現、精密工学会〕 会員			
1985年 8月～2013年 3月		日本設計製図学会〔現、日本設計工学会〕 会員			
1992年 3月～現在に至る		その他の補助金・助成金(宮陸会学術研究奨励助成金)400,000円 ゆるみの検出方法に関する研究(研究代表者)			
2003年～現在に至る		国内共同研究 介護支援機器の開発			
2013年 4月～2014年 3月		日本ねじ研究協会 J I S改正原案作成委員会 委員			
2014年 4月～現在に至る		日本ねじ研究協会出版委員会 委員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
工学部経営工学科	教授	松浦 春樹	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育方法の実践例			
学生による授業評価アンケート結果の活用：講義イントロ部分でのトピックスの紹介	2005年 4月 1日 ～現在に至る	(全授業担当科目) 2004年度実施の学生による授業評価アンケート結果の総合的評価の向上には、当該科目の現代ビジネスとの関連を強調の必要性があることから、日本経済新聞の記事を取り入れた現代社会との密接な関係付け、人間の認知構造まで踏み込んだ経営管理との関係、企業のケースなどのトピックスを取り込む努力を続けている。	
学生による授業評価アンケートの活用：学修支援ホームページの再開	2005年 5月 ～現在に至る	(全授業科目) 理系的色彩を持つ科目を担当のため、2004年度アンケート結果の内容がわかりにくいとの評価を受け、WEB上に講義・演習サポート用ホームページを開設し、受講生・ゼミ生の学修の充実を図った。講義はパワーポイントを用いてすすめるが、そのほぼ全てのパワーポイント原本を受講生は、必要に応じて印刷もしくはダウンロードできる。	
経営工学科単独オープンキャンパスの企画と実行	2011年 9月 ～現在に至る	高校生に経営工学の価値を啓蒙するための学科単独オープンキャンパスを企画、実施した。	
ERPシステムの導入	2011年11月 ～現在に至る	ERPシステム(業務統合パッケージ)の世界標準であるSAPの国際大学連合に加盟し、SAPを教育用に導入した。	
入学前教育経営工学科独自課題の企画、実行	2011年11月 ～現在に至る	秋の推薦入学試験合格者に対する入学前教育の経営工学科独自課題として、課題文献をコーネル式のノートとし、文献から興味あるテーマを見つけ、レポートを作成するという教育プログラムを企画、実行した。ノートテイキング用チェックリスト、課題作成用チェックリストなどを独自に開発した。	
経営工学科0Bによる卒業生の社会での活躍の講演会	2011年11月 ～現在に至る	経営工学を学んだ者が社会でどのように活躍してきたかを、0Bの体験談を通じて理解させる講演会を企画、実施した。就職活動を始める3年生を対象として、進路を考える一助とした。	
「高校の新学習指導要領と大学改革」講演会の企画、実施	2012年 7月14日 ～現在に至る	中央教育審議会委員の安彦忠彦氏をスピーカとして、高校教員および学内者を対象とした講演会を企画、実施した。出席者は80名を超え、成果を収めた。経営工学科新設の記念事業の一環として行われた。	
経営工学科ホームページの企画、リリース	2012年 9月 ～現在に至る	経営工学科の存在意義を正面から答える、わかりやすいホームページを企画、原稿を準備し、リリースした。	

国際会議ACMSA2012院生研究発表引率支援	2012年 9月 7日 ～2012年 9月10日	修士課程院生2名の英語による研究発表のため、開催地の中華人民共和国成都市に引率出張し、発表を支援した。会議終了後、論文投稿依頼を受け、投稿後、2名とも論文が掲載された。
国際会議ACMSA2013院生研究発表引率支援	2013年12月21日 ～2013年12月23日	修士課程院生3名の英語による研究発表のため、開催地の中華人民共和国昆明市に引率出張し、発表を支援した。会議終了後、2論文につき投稿依頼を受け、現在審査中である。
経営工学科卒業生による連続講演会の企画と実行	2014年10月10日 ～2014年12月12日	工学部横断プロジェクトとして特別予算化された卒業生による就職支援のための講演会について、卒業生6名による6回の講演会、マイナビ寄付のSPI模擬試験など3回の公演を企画し、実行した。
2 作成した教科書、教材		
三年次選択必修「国際ロジスティクス論」教科書の翻訳出版コーディネータ	2002年 8月 ～現在に至る	米国で高い評価を受けているパワーソックス他著「サプライチェーン・ロジスティクス・マネジメント」を左記科目の教科書として最適と判断し、訳者代表として翻訳出版のコーディネータを務めた。この結果、同書は朝倉書店より「サプライチェーン・ロジスティクス」として出版され、専修大学商学部でも教科書採用された。
一年次必修科目「コンピュータ概論」教科書の執筆・出版	2005年 8月 ～現在に至る	文系向けに、情報処理の古典的教育内容と、新たな分野であるネットワークおよびセキュリティをバランスよく配分したテキストが見当たらないことから、テキストを作成、「文系のためのコンピュータ&ネットワークシステム入門」として中央経済社から出版した。
情報システム創成学科経営工学コース「実験実習1・2」実験テキスト「ワークサンプリング」「PTS法」「統計的検定」	2009年 1月 ～2011年 1月	3年次必修科目の「実験実習1・2」の実験につき、「ワークサンプリング」「PTS法」「統計的検定」の各実験項目を企画、準備、実験テキストを執筆した。
経営工学用語辞典の発行	2011年 9月 ～現在に至る	経営工学コア教員による分担執筆である標記を企画、発行し、在学生、高校生、学内者などに配布した。経営工学科新設の記念事業の一環である。
経営工学科3年次「実験実習2」実験テキスト「自動倉庫」「日程計画」	2014年 8月 ～現在に至る	
シミュレーションソフトウェアARENAを用いたジャストインタイム生産実験	2014年11月 ～現在に至る	カンバンによる部品納入と混合ライン生産における平準化の重要性を認識させることを目的とした、経営工学科3年次生用実験を開発した。ARENAによるシミュレーションソフトウェアの開発を学ぶことも兼ねている。本実験はSAPサーバ（在オーストラリア）使用不能時のバックアップ実験である。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
2008年前期授業評価アンケート結果	2008年 9月 1日 ～現在に至る	（授業科目：経営情報論）「視聴覚教材」のわかりやすさについて72.4%の受講者から「強くそう思う」および「そう思う」の評価を受け、各種平均と比較してかなり高い評価点を得た。その他の全評価項目についても各種平均より高い評価点を得た。

研究授業の実施	2009年 7月13日 ～現在に至る	(授業科目：組織デザイン) 工学部FD委員会実施の研究授業を実施し、授業参観複数教員による授業評価を受けた。パワーポイント資料の優良さ、30分おきに演習問題を提示することの有効性、図表を使ってイメージによって受講生の理解を促進していることなど、参観教員が一致した高い評価を受けた。
第16回大学教育研究フォーラム参加	2010年 3月18日 ～現在に至る	京都大学吉田キャンパスで開催された第16回大学教育研究フォーラムに参加し、個人研究発表、特別講演、シンポジウムに、情報交換会に出席し、各大学、各大学教員のFD活動の実際について、認識を新たにす。私立よりも、国公立大学、また、関東よりも関西でFDが進展していることに衝撃をうけた。
2010年前期授業アンケート結果	2010年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：組織デザイン、生産管理システム) 授業科目についての評価は、ほぼ全評価項目において、全学、学部、学科の平均と比較して教材の提示方法についてかなり高い評価点を得た。その他の全評価項目についても各種平均より高い評価点を得た。とくに「組織デザイン」について高い評価を得た。
2010年後期授業アンケート結果	2011年 3月 1日 ～現在に至る	(授業科目：生産マネジメント) 授業科目についての評価は、ほぼ全評価項目において、学部、学科の平均と比較して高い評価点を得た。授業の総合満足度においては、全学、学部、学科の平均よりも高い評価を得た。
2011年度FYS授業アンケート	2011年 9月 1日 ～現在に至る	運営が難しい新入生向けファーストイヤーセミナー (FYS) において5段階で平均4に近い、高い総合評価を得ることができた。この年度から、所属学科の新入生が受け持ち対象となったことが要因の一つと考えられる。
2012年度前期アンケート結果	2012年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：マネジメントシステム設計論) 授業科目についてのほぼ全項目で、全学、学部、学科の評価平均点を超える評定を得た。
第18回FDフォーラム参加	2013年 2月23日 ～2013年 2月24日	立命館大学衣笠キャンパスで開催された、標記においてシンポジウム「主体的な学びを支える仕組み」および第3分科会「学生による授業アンケートの現状と課題そして発展へ」に参加した。大学FD活動の動向を学んだ。とくに京都堀川高校の「課題探求」授業が印象的であった。
2013年度FYS授業アンケート	2013年 4月 1日 ～現在に至る	受講生の納得を得ることが難しい、新入生導入教育、ファーストイヤーセミナー (FYS) において、総合評価で5段階評価、4を超える高い評価を得た。
2014年前期大学院授業アンケート	2014年 4月 1日 ～2014年 7月30日	大学院「生産管理特論」の受講生授業アンケートにおいて、学生側の自己評価を除き、全員から各項目満点の評価を得た。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
なし		
5 その他		

なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
A Similarity Measure of Schedules and Robustness Evaluation of Priority Rules (査読 付)	共著	2014年 2月	Advanced Materials Research・TTP Press 889-890	Haruki Matsuura, Akiko Asada, YuYa Sato	1189-1202頁
Designing a Robust Mixed-Model Assembly Line Appropriate for Mixing Ratio Variations (査読付)	共著	2014年 6月	Innovation and Supply Chain Management Vol. 8 (No. 2)	Peng Yu, Haruki Matsuura, Akiko Asada	pp. 74-80頁
Promoting Flexibility in the Mixed-Model Assembly Line by Introducing Buffer Stocks (査読付)	共著	2014年 6月	Innovation and Supply Chain Management・ISCM Forum Vol. 8 (, No. 2)	Fei Yin, Haruki Matsuura, Akiko Asada	pp. 66-73頁
ドライバーの心理・生 理機能と車輛の協調に よる次世代交通システ ムの構築	共著	2014年10月	神奈川大学工学研究所 報(神奈川大学工学研 究所) (37)	森みどり、中易秀敏、松浦春樹 、三好哲也	51-56頁
ドライバーの心理・生 理機能と車輛の協調に よる次世代交通システ ムの構築	共著	2014年11月	神奈川大学工学研究所 報 (37)	森みどり、中易秀敏、松浦春樹 、三好哲也	51-56頁

GERT and Petri net Analysis for Performance Evaluation of Distribution Centers (査読付)	共著	2015年 2月	information(International Information Institute) 18(2)	©Jun Usuki, Haruki Matsuura, Masatoshi Kitaoka, Hitoshi Takeda	735-752頁
その他					
製造企業における生産の計画と管理 営業・生産・開発計画の融和を	単著	2010年 7月	神奈川新聞 2010年7月6日朝刊17面		
スケジュールの一致性尺度	共著	2010年10月	日本経営工学会平成22年度秋季研究発表大会予稿集	山下直也 松浦春樹 浅田明子	76-77頁
優先番号法によるスケジュールの各種不確実要因下での頑健性評価	共著	2010年10月	日本経営工学会平成22年度秋季研究発表大会予稿集	松浦春樹 浅田明子 佐藤雄弥	74-75頁
加工時間を調整できるジョブショップにおける総所要時間の頑健化	共著	2010年10月	日本経営工学会平成22年度秋季研究発表大会予稿集	森田達志 松浦春樹 北岡正敏	196-197頁
計画の凍結期間が負荷量変動および納期遅れに与える影響	共著	2010年10月	日本経営工学会平成22年度秋季研究発表大会予稿集	石井皓洋 松浦春樹	218-219頁
Parts Commonality Procedure Using Parts Data Base in Production Process (査読付)	共著	2011年 9月	Proceedings of 2011 Asian Conference of Management Science & Applications	Jun Usuki Taiki Misawa Masatoshi Kitaoka Haruki Matsuura	237-243頁
バッファの設置による混合ライン長の短縮の研究	共著	2011年11月	日本経営工学会平成23年度秋季研究発表大会予稿集	山下直也 松浦春樹 浅田明子	238-239頁

工程調節理論による自動生産ラインの保守点検に関する研究	共著	2011年11月	日本経営工学会平成23年度秋季研究発表大会予稿集	丸山礼人 北岡正敏 松浦春樹 浅田明子	226-227頁
組立自動化生産ラインの性能評価に関する研究	共著	2011年11月	日本経営工学会平成23年度秋季研究発表大会予稿集	北岡正敏 松浦春樹 浅田明子	224-225頁
計画の凍結期間とスケジュール方法が負荷量変動及び納期遅れに与える影響	共著	2011年11月	日本経営工学会平成23年度秋季研究発表大会予稿集	石井皓洋 松浦春樹 浅田明子	162-163頁
負荷のバラツキを考慮した負荷配分	共著	2011年11月	日本経営工学会平成23年度秋季研究発表大会予稿集	森田達志 松浦春樹	222-223頁
ファジイ推論を用いた自動生産ラインの故障診断に関する研究	共著	2012年 5月	日本経営工学会平成24年度春季大会予稿集	丸山礼人、松浦春樹、北岡正敏	158-159頁
A Study on Promoting Flexibility in Mixed-Model Line Production	共著	2012年 9月	Proceedings of 2012 Asian Conference of Management Science & Applications	Yin Fei, Matsuura Haruki, and Asada Akiko	
Designing a Robust Mixed-Model Assembly Line Appropriate for the Mixing Ratio Variations	共著	2012年 9月	Proceedings of 2012 Asian Conference of Management Science & Applications	Yu Peng, Matsuura Haruki, and Asada Akiko	
Performance Evaluation of Distribution Center using GERT and Petri net	共著	2012年 9月	Proceedings of 2012 Asian Conference of Management Science & Applications	Jun Usuki, Masatoshi Kitaoka, Haruki Matsuura, and Hitoshi Takeda	
バッファの設置による混合ライン生産方式の柔軟性向上の研究	共著	2012年11月	日本経営工学会平成24年度秋季研究大会	尹飛、松浦春樹	

ファジィ推論を用いた自動生産ラインの保守、点検に関する研究	共著	2012年11月	日本経営工学会平成24年度秋季研究大会	丸山礼人、松浦春樹、北岡正敏	
混合比の変動に対して頑健な混合ライン生産方式の設計	共著	2012年11月	日本経営工学会平成24年度秋季研究大会	于鵬、松浦春樹、浅田明子	
A Similarity Measure of Schedules and Robustness Evaluation of Priority Rules (査読付)	共著	2013年12月	4th International Conference on Advances in Materials and Manufacturing Processes	Haruki Matsuura , Akiko Asada, Yuya Sato	
Avoiding deadlocks by grouping machines under limited capacity WIP (査読付)	共著	2013年12月	Proceeding of 2013 Asian Conference of Management Science and Application	Hideyuki Fukuhara, Haruki Matsuura , Akiko Asada	
Identifying critical jobs for make-span in flow shop scheduling (査読付)	共著	2013年12月	Proceedings of 2013 Asian Conference of Management Science and Application 2013	Masahiro Watanabe, Haruki Matsuura , Akiko Asada	
Shortening the line length in the mixed model assembly line by installing pull-off tables (査読付)	共著	2013年12月	Proceeding of 2013 Asian Conference of Management Science and Application	Hiroshi Miyazaki, Haruki Matsuura , Akiko Asada, Kenji Hirano	
機械のグルーピングによる在庫制約下のジョブショップにおけるデッドロック現象の回避効果	共著	2014年11月	日本経営工学科平成25年度秋季大会	福原秀行、 松浦春樹 、浅田明子	
混合ライン生産方式における単一プルオペーブルを用いたライン長短縮に関する研究	共著	2014年11月	日本経営工学会平成25年度秋季大会	宮崎大、 松浦春樹 、浅田明子	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
年月	内容
	個人研究 変動する環境下での生産管理方式の研究
	個人研究 多段階工程における生産指示方式の研究
1973年 5月～現在に至る	日本経営工学会(国内学会)会員
1973年 7月～現在に至る	日本オペレーションズ・リサーチ学会(国内学会)会員
1975年 4月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員
1984年 1月～現在に至る	APICS(米国生産在庫管理協会)(国際学会)会員
1984年 7月～現在に至る	TIMS(現INFORMS、米国経営科学協会)(国際学会)会員
1985年 1月～現在に至る	AIDS(現DSI、米国決定科学協会)(国際学会)会員
1988年 7月～現在に至る	日本機械学会(国内学会)会員
1990年 4月～2012年 3月	経営情報学会(国内学会)会員
1994年 3月～現在に至る	ISIR(国際在庫管理学会)(国際学会)会員
1996年 1月～現在に至る	POMS(米国生産管理学会)(国際学会)会員
2007年 1月～現在に至る	NPO日本技術マネジメント協会 理事
2009年 5月～2011年 5月	(社)日本経営工学会 第30期社員(代議員)
2012年 5月～現在に至る	神奈川県立神奈川工業高校 評議員
2014年11月～2014年12月	2014 International Conference on Lighting Materials and Manufacturing Technology The member of the international scientific committee

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
工学部経営工学科	助教	森 みどり	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
チェックリストを活用したレポート執筆の自己評価と教員添削指導	1988年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：経営工学実験実習1・2、経営工学演習、輪講・卒業研究) 実験レポート執筆ガイドとして3群22項目のチェックリストを配布、レポートを5点法で自己評価し3点以上になるまで修正し提出するように指導している。教員は提出直後にチェックリストに基づく評価と添削を行ない、必要に応じて修正加筆を反復指導している。演習、卒業研究・輪講では更に専門的な科学論文執筆を指導、同様のチェックリストを用いた自己評価・修正、教員の添削指導、修正加筆の繰り返しを通して、論文執筆の要点を体得し自力で推敲し完成する能力を身につけることを意図している。	
テクニカルライティング、書記録作成の指導・添削	1988年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：経営工学演習、輪講・卒業研究)ゼミで行なった教員指導、学生同士の討論を整理して客観的に記録することを教えている。輪番制で学生が司会・書記録を担当し、執筆した記録を電子メールで配信、教員・学生全員が添削し、改善した記録を次回ゼミで確認する。1～2年間継続することで、他者の話を良く聞き、専門的討論等の記録も取れるようになる。その他、各種レポート添削指導を随時行ない、テクニカルライティング能力の向上に効果を上げている。	
卒業研究学生の学会参加、論文発表指導補佐	1988年 4月 1日 ～現在に至る	日本人間工学会、日本経営工学会、人類働態学会等の年次大会及び学会主催の卒業研究発表会等で、毎年数件の卒業研究論文を積極的に発表するとともに、各種の学会・学術講演会等への参加を奨励している。特に、表彰制度があった1995-1997年の日本人間工学会関東支部大会卒業研究発表セッションでは毎年優秀論文としての表彰実績(計4件)を持つ。	
問題解決志向、フィールド重視の卒業研究指導補佐	1988年 4月 1日 ～現在に至る	研究室主宰教員を補佐し、心理学・人間工学の知見・方法論をベースとした問題解決志向、フィールド重視の研究を奨励している。卒業研究が公的な製品・システム改善に直結した事例として、道路案内標識の改善、交差点改良研究、大学Webサイトのユーザビリティ改善、学生食堂システム改善等々があり、人間工学の専門性を活かして社会に貢献している。	

調査・実験等自主研究、論文集作成と発表・討論会の実施・指導補佐	1988年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：経営工学演習、輪講・卒業研究)長期休暇中に人間工学関連テーマの調査・実験研究を行い、全員の論文を学生中心で編集することを指導している。さらに、授業期間または合宿でビジュアルエイドを活用した論文発表・討論を行い、実体験を通して研究の進め方、論文執筆、研究発表の基礎を学べるように配慮している。
グループ学習・グループディスカッションの採用、学生・教員間の双方向教育の実践	1995年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：経営工学演習、輪講・卒業研究) 学生自身の興味・関心・疑問等を引き出し合いながら、自他の意見の識別、視野の拡大、意欲の向上、自己学習能力・問題解決能力の向上をねらいとして、各種の課題や書記録を討論しながら完成するグループ学習やグループディスカッションをできる限り採用している。 学生の多様な個性・関心と資質を踏まえ、主体的な相互学習を中心とし、学生からの質疑や学習・活動状況に応じて随時教員が必要な指導・助言を行う過程、学生・教員間の双方向コミュニケーションを通じた課題の達成を重視している。
ビジュアルエイドを用いたプレゼンテーション指導	1995年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：フレッシュマンセミナー、実験実習、経営工学演習、輪講・卒業研究) 自己の意見を発表する能力と専門的コミュニケーション能力向上を目的として、OHPやPC・プロジェクタ等のAV機器・ビジュアルエイドを用いて、自己の考えをまとめて発表する、発表を聞いて積極的に質問やコメントを述べる討論形式の演習を行っている。繰り返し実施することで、専門的なプレゼンテーションと討論が出来るように成長する。
評価チェックリストに基づく自己評価・学生相互評価の導入	1995年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：経営工学演習、輪講・卒業研究)課題レポート・論文本文とその発表に対して、独自に作成した評価チェックリストを用いて、自己評価と学生相互の評価・討論を実施している。自己評価は自己の学習活動のモニタリングと到達目標の明確化を、相互評価は他学生の研究活動に関心を持ち相互に学び合うこと、論文・発表を評価する専門的視点を養うこと、を意図している。学生相互評価は概ね教員評価と一致し、学生評価の尊重は主体性、動機づけの向上にも役立っている。
電子メールを活用した授業サポート	1995年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：実験実習、経営工学演習、輪講・卒業研究) ITスキルの修得及び学生指導の効率化、迅速化をねらいとして、電子メールを活用し、質問・回答・指導、関連情報の提供、メール会議、レポートやゼミ書記録の添削指導等を行なっている。学生間相互学習の促進、電子メール利用機会の提供、情報セキュリティに関する学習、ネチケット習得など、多くの効果を上げている。

問題解決型グループ学習、フィールド実習指導補佐	2002年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：経営工学演習)数名の小グループによる問題解決型フィールド実習を採り入れている。人間工学チェックリストを活用した作業現場の観察、データ分析、改善策立案、レポート作成、発表討論会を通して成果をフィールドにフィードバックしている。学生の参加意欲・態度は概ね良好で、グループ学習の面白さと協同作業の難しさを体験しながら、参加型問題解決法の有効性、フィールド研究企画力・実践力の基礎を学ぶ機会となっている。
2 作成した教科書、教材		
神奈川大学工学部経営工学科「経営工学実験実習I」「経営工学実験実習II」テキスト作成	1996年 4月 ～2014年 3月	3年次実験実習科目において、人間工学・心理学領域2テーマのプログラム・テキスト作成(共著)を担当すると共に、テキストに基づく実験実施およびレポート作成等の学生指導に従事した。1. VDT作業の作業負担測定、2. 情報処理とヒューマンエラー測定
神奈川大学工学部経営工学科「経営工学実験実習II」テキスト作成	2006年 9月 ～2014年 3月	3年次実験実習科目において、環境管理・心理学領域1テーマのプログラム・テキスト作成(共著)を担当すると共に、テキストに基づく実験実施およびレポート作成等の学生指導に従事した。1. 環境設計と管理－騒音測定と評価－
神奈川大学工学部経営工学科編「経営工学用語集」執筆	2010年 8月 1日 ～現在に至る	「経営工学用語集」の人間工学、環境、安全分野の項目を分担、執筆した。
神奈川大学工学部経営工学科「実験実習I」テキスト作成	2014年 4月 1日 ～現在に至る	3年次実験実習科目において、人間・環境系科目1テーマのプログラム・テキストを作成し、テキストに基づく実験実施およびレポート作成等の学生指導に従事している。1. 環境設計と管理－騒音測定と評価－
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
2012年度後期授業評価アンケート結果	2013年 3月 ～現在に至る	(授業科目：環境経営) 学生による授業評価アンケートにおいて、授業科目については全て学部・学科の平均値以上の評価を得た。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
なし		
5 その他		
日本経営工学会KAIZEN and ERGONOMICS研究部会主催夏期研修会の実施	1988年 4月 1日 ～現在に至る	人間工学専攻大学生・院生を対象に、本学を含む5～10大学の教員・学生、研究者、産業界OB等数10名が参加する合宿形式の夏期研修会を毎年開催、企画・運営に当たっている。プログラムは卒研中間発表、フィールド研究実践、問題解決志向参加型グループ学習と成果発表、各種現場見学等多岐に渡り、卒研の効果的推進、専門的コミュニケーション・問題解決能力習得、他大学/産業界との積極的人的交流等、多くの教育効果を上げている。(昭和63年4月1日)
経営工学科カリキュラム検討委員会における活動	2012年 4月 ～2014年 3月	現在および将来の学科カリキュラム、教育指導内容・方法、シラバス等について検討を行った。

経営工学科実験実習検討委員会における活動	2012年 4月 ～2014年 3月	2014年度開講の「実験実習I・II」のカリキュラム、教育指導内容・方法、シラバス、実施体制・方法、成績評価等について検討を行った。			
工学部FD委員会における活動	2013年 4月 ～現在に至る	経営工学科委員として、所属学科模範授業の実施とともに、学部の各種FD活動について検討および実施している。			
経営工学科教育改善委員会における活動	2014年 4月 ～現在に至る	学科カリキュラム、教育内容・方法等について検討し、継続的な改善活動を行っている。			
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
働態研究の方法 第3章「生活働態を調べる」(15)バスの車内事故削減を目指した乗客働態研究 ～自然/直接観察法をベースとしたフィールド調査と事故・ニアミス事例分析～	共著	2010年 6月	(人類働態学会)	森みどり, 堀野定雄	287-290頁
働態研究の方法 第3章「生活働態を調べる」(9)テレフィールド調査手法の紹介～交通事故・ニアミス事象の背景を探る～	共著	2010年 6月	(人類働態学会)	久保登, 森みどり, 堀野定雄	263-266頁
論文					

Ergonomics study on the Visual Environment at Urban Uncontrolled Intersections Based on Visibility Simulation Approach Applying 3-Dimensional Computer Graphics Software (査読付)	共著	2010年 7月	CRC Press / Taylor & Francis, Ltd.	<u>Midori Mori</u> , Sadao Horino, Noboru Kubo	873-882頁
鏡像シミュレーションによる交差点カーブミラー視認性向上のための設置条件検討 (査読付)	共著	2010年 8月	日本機械学会論文集C編 76(768)	久保登, <u>森みどり</u> , 堀野定雄	2154-2159頁
3D CG鏡像シミュレーション法に基づく交差点出会い頭事故事例分析 (査読付)	共著	2011年 3月	日本機械学会論文集C編 77(775)	西村洋, 野口絵理香, <u>森みどり</u> , 久保登, 堀野定雄	604-613頁
ドライブレコーダーデータの効率的な自動分類手法 (査読付)	共著	2011年 6月	日本機械学会論文集C編 77(778)	久保登, <u>森みどり</u>	2506-2521頁
ドライブレコーダーによる交通事故詳細分析手法 (査読付)	共著	2011年 7月	日本機械学会論文集C編 77(779)	久保登, <u>森みどり</u>	2940-2952頁
Analysis of Evacuation Behavior in Aircraft Accident Using Evacuation Model Based on MAS (査読付)	共著	2013年 7月	2013 International Conference on Biometrics and Kansei Engineering (ICBAKE 2013)	T. Miyoshi, H. Nakayasu, <u>M. Mori</u> , M. Nakagawa	172-177頁

Ergonomics Study of Direct and Indirect Visibility Evaluation at Uncontrolled Intersections Based on Three-Dimensional Computer Simulation (査読付)	共著	2013年 7月	DHM/Hcii 2013, Part I, LNCS 8025. Springer	M. Mori, N. Kubo	70-77頁
ドライビングシミュレータとアイトラッキングシステムを用いた運転者の眼球運動と車輛軌跡の同期解析 (査読付)	共著	2013年 7月	日本機械学会論文集C編 79(803)	森みどり, 中易秀敏, 三好哲也	2408-2423頁
その他					
課題番号 18510149号 出会い頭事故の原因分析と再発防止—視認性向上による交通管理システム再設計—	共著	2010年 4月	2006-2008年度科学研究費補助金基盤研究(C)成果報告書	堀野定雄, 森みどり	
ドライブレコーダー映像を用いた事故詳細分析	共著	2010年 5月	自動車技術会 2010年春季大会 学術講演会前刷集 No.18-10	久保登, 堀野定雄, 森みどり	17-20頁
3DCGシミュレーションによる交差点視環境評価—運転者視点の比較—	共著	2010年 6月	人類働態学会会報No. 92, 人類働態学会第45回大会講演集	森みどり, 堀野定雄, 久保登	30頁
3DCGシミュレーション法による交差点カーブミラーの視認性評価	共著	2010年 6月	日本人間工学会誌 46(特別号)	森みどり, 堀野定雄, 久保登, 西村洋, 野口絵理香	344-345頁
出会い頭事故未然防止と3DCGシミュレーションによるカーブミラー設置の最適化	共著	2010年 6月	日本交通心理学会平成22年度(第75回大会) 発表論文集	堀野定雄, 西村洋, 野口絵理香, 森みどり, 久保登	41-42頁

映像記録型ドライブレコーダを活用した交通安全教育－タクシーの事故・ニアミス分析を例にして－	共著	2010年 6月	日本人間工学会誌 46(特別号)	堀野定雄, <u>森みどり</u> , 久保登	142-143頁
映像記録型ドライブレコーダを用いた事故解析－タクシー対自転車事故・ニアミスの要因と予防安全－	共著	2010年 6月	人類労働学会会報No. 92 ，人類労働学会第45回大会講演集	堀野定雄, <u>森みどり</u> , 久保登	31頁
理事会企画シンポジウム「次世代を担う人材と学会運営の活性化に向けて」：人類労働学会の社会的役割について	単著	2010年 6月	人類労働学会会報No. 92 ，人類労働学会第45回大会講演集		12-13頁
Ergonomics accident/near accident analysis of taxi by means of an image-recording-type drive recorder in relation to newly developed “transportation safety management”	共著	2010年 7月	the Applied Human Factors and Ergonomics 3rd International Conference	Sadao HORINO, <u>Midori MORI</u> , Noboru KUBO	
Ergonomics study on the visual environment at urban uncontrolled intersections based on visibility simulation approach applying 3-Dimensional computer graphics software	共著	2010年 7月	Proceedings of the Applied Human Factors and Ergonomics 3rd International Conference, CD-ROM	<u>Midori Mori</u> , Sadao Horino, Noboru Kubo	

東京のタクシー車両に搭載されたドライブレコーダーデータの自動収集システムの構築	共著	2010年10月	自動車技術会2010年秋季大会 学術講演会前刷集 (No. 98-10)	久保登, 榎田修一, 荒川等, 石川正士, 岩崎宣仁, 堀之内新吾, 林豊洋, 龍重法, 石川 博敏, <u>森みどり</u> , 堀野定雄	5-10頁
人間工学視点に基づく安全円滑な平面交差交通システムの構築—カーブミラーの視認性向上による交差点視環境改善—	共著	2010年11月	神奈川大学工学研究所所報 33	堀野定雄, <u>森みどり</u> , 久保登, 北島創	72-80頁
ドライブレコーダーの大量データ全自動収集・転送・蓄積システム	共著	2011年 2月	テクニカルショウヨコハマ2011	久保登, <u>森みどり</u> , 堀野定雄, 石川博敏, 石倉理有, 龍重法	
国際観光都市鎌倉のユニバーサルデザイナー大船・鎌倉の移動円滑化—	共著	2011年 2月	日本経営工学会西関東支部第11回卒業論文発表会予稿集	太田達也, 堀野定雄, <u>森みどり</u>	
江ノ電バスのバリアフリー	共著	2011年 2月	日本経営工学会西関東支部第11回卒業論文発表会予稿集	齊木裕介, 堀野定雄, <u>森みどり</u>	
ドライブレコーダー研究プロジェクト 最新のドライブレコーダー技術の研究成果について	共著	2011年 5月	かながわ中小企業総合支援委員会キャンパスミーティング	<u>森みどり</u> , 久保登, 堀野定雄	
加速度波形による効果的なドライブレコーダーデータの自動分類手法	共著	2011年 5月	自動車技術会2011年春季大会 学術講演会前刷集 (No. 46-11)	久保登, <u>森みどり</u> , 龍重法, 石川博敏, 堀野定雄	1-4頁
実路テストコース実車実験に基づく交差点カーブミラーの視認性評価	共著	2011年 6月	日本人間工学会誌 47(特別号)	<u>森みどり</u> , 久保登, 堀野定雄	112-113頁

映像記録型ドライブレコーダーによる事故/ニアミス分析ータクシーの安全課題ー	共著	2011年 6月	日本人間工学会誌 47(特別号)	堀野定雄, 伊藤昂大, 宍戸翼, 森みどり, 久保登	114-115頁
SS35 Drastic reduction of traffic accidents by “ image-recording type ” drive recorders, Detailed analyses with open drive-recorders data on a web site using “Tele Field Examination Method”	共著	2011年10月	18th World Congress on Intelligent Transport Systems	Noboru KUBO, <u>Midori MORI</u> , Toshihiro TORITSUKA, Koji UKENA	
タクシーに搭載した映像記録型ドライブレコーダーデータのマクロ分析ー事故・ニアミスの発生傾向と関連要因の究明ー	共著	2012年 2月	日本経営工学会西関東支部第12回学生論文発表会 予稿集	山口元気, 松井正之, <u>森みどり</u> , 久保登	pp. 47-48頁
安心できる緊急時情報伝達的设计と評価	共著	2012年 2月	日本経営工学会西関東支部第12回学生論文発表会 予稿集	加藤譲, 松井正之, <u>森みどり</u> , 久保登	49-50頁
人間工学視点に基づく安全円滑な平面交差交通システムの構築ーカーブミラーの視認性向上による交差点視環境改善ー	共著	2012年11月	神奈川大学工学研究所所 報 35	堀野定雄, <u>森みどり</u> , 久保登, 北島創	37-46頁
心理物理計測の工学的応用	共著	2012年11月	神奈川大学工学研究所所 報 35	中易秀敏, <u>森みどり</u>	8-19頁

DS運転作業時の車輛の力学的挙動とヒューマンファクタの同期計測分析	共著	2012年12月	日本材料学会第26回信頼性シンポジウム	中易秀敏, 森みどり, 三好哲也	
しきい値を用いないドライブレコーダーデータ自動分類手法の有効性	共著	2013年 6月	日本人間工学会誌 49(特別号)	森みどり, 久保登,	248-249頁
課題番号21510184 運転者視点による交通視環境評価と安全円滑な平面交差交通システム設計	共著	2013年 6月	科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書	森みどり, 堀野定雄	
ドライビングシミュレータにおけるタスク経過時間に伴う脳波波形の変化の研究	共著	2014年 5月	日本経営工学会2014年度春季大会予稿集	荒木杏久里, 森みどり, 久保登, 松井正之, 中易秀敏	194-195頁
ドライビングシミュレータによる運転時の視覚情報処理が空間定位に及ぼす影響分析	共著	2014年 5月	日本経営工学会2014年度春季大会予稿集	小林直人, 森みどり, 久保登, 松井正之, 中易秀敏	112-113頁
3DCGシミュレーションに基づく交差点安全運転視界の評価 ―カーブミラー諸元による鏡像の視認性比較―	共著	2014年 6月	日本人間工学会誌 第50巻(特別号)	森みどり, 久保登, 杉原大和	230-231頁
ドライバーの心理・生理機能と車輛の協調による次世代交通システムの構築	共著	2014年11月	神奈川大学工学研究所報 37	森みどり, 中易秀敏, 松浦春樹, 三好哲也	51-57頁
ドライバーの快・不快を基にした交差点改善手法の研究	共著	2014年11月	日本経営工学会2014年度秋季大会予稿集	荒木杏久里, 森みどり, 久保登, 柴一真, 松井正之, 中易秀敏	16-17頁
左折時の視覚情報処理が自車の空間定位に及ぼす影響分析	共著	2014年11月	日本経営工学会2014年度秋季大会予稿集	小林直人, 森みどり, 久保登, 柴一真, 松井正之, 中易秀敏	18-19頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

年月	内容
1984年 1月～現在に至る	日本教育心理学会(国内学会) 会員
1985年10月～現在に至る	日本心理学会(国内学会) 会員
1987年 5月～現在に至る	日本人間工学会(国内学会) 会員
1987年 6月～現在に至る	人類労働学会(国内学会) 会員
1988年 4月～現在に至る	国内共同研究 (一)事故発生過程の動的解析とタスク志向の再発防止策-ヒューマンエラー対システムエラーの視点から-
1988年 4月～現在に至る	国内共同研究 (一)産業疲労の測定評価-快適職場を目指した作業管理・環境管理-
1988年 4月～現在に至る	機関内共同研究 (一)視線分析と視界設計-交通、監視制御、対話型システムに於ける視覚情報の時空間最適配置-
1988年 6月～現在に至る	日本経営工学会(国内学会) 会員
1992年 4月～2010年 5月	日本人間工学会(国内学会) 評議員
1998年 6月～現在に至る	人類労働学会(国内学会) 理事
2005年 4月～現在に至る	個人研究 ユーザビリティ分析と人間中心設計
2005年 4月～現在に至る	個人研究 事故とヒューマンエラーの研究
2005年 4月～現在に至る	個人研究 快適な作業環境の設計
2005年 4月～2011年 3月	農林水産省農業資材審議会 専門委員
2005年 5月～現在に至る	日本交通心理学会(国内学会) 会員
2009年 4月～現在に至る	(独)日本学術振興会審査委員候補者登録
2009年 4月～現在に至る	(社)自動車技術会(国内学会) 会員
2009年 4月～2011年 3月	その他の補助金・助成金 (神奈川大学工学研究所共同研究)8,000,000円 人間工学視点に基づく安全円滑な平面交差交通システムの構築-カーブミラーの視認性向上による交差点視環境改善- (研究分担者)
2009年 4月～2013年 3月	科学研究費補助金 4,420,000円 「基盤研究(C)」課題番号 21510184号 運転者視点による交通視環境評価と安全円滑な平面交差交通システム設計 (研究代表者)
2009年 5月～2011年 4月	日本経営工学会(国内学会) 社員(代議員)
2009年 7月～現在に至る	日本人間工学会(国内学会) 人間工学専門家認定機構人間工学準専門家認定審査委員
2009年10月～2010年 6月	人類労働学会(国内学会) 次世代検討委員会委員
2010年 4月～2011年 3月	その他の補助金・助成金 (文部科学省/財)福岡県産業・科学技術振興財団 福岡先端システムLSI開発クラスター)1,415,000円 「平成22年度地域産官学連携科学技術振興事業費補助金 イノベーションシステム整備事業」(地域イノベーションクラスタープログラム) 車載カメラによる安全センサシステムの研究開発 (研究分担者)
2010年 4月～2012年 3月	日本人間工学会(国内学会) 関東支部委員
2010年 4月～現在に至る	日本機械学会(国内学会) 会員
2011年 4月～2012年 3月	その他の補助金・助成金 (文部科学省/財)福岡県産業・科学技術振興財団 福岡先端システムLSI開発クラスター)1,093,000円 「平成23年度地域産官学連携科学技術振興事業費補助金 イノベーションシステム整備事業」(地域イノベーションクラスタープログラム) 車載カメラによる安全センサシステムの研究開発 (研究分担者)
2011年 5月～2011年 7月	日本人間工学会(国内学会) 日本人間工学会第52回大会優秀研究発表奨励賞 選考委員
2012年 6月～現在に至る	人類労働学会(国内学会) 機関誌編集委員

2013年 4月～2014年 3月	その他の補助金・助成金（神奈川県工学研究所共同研究）2,000,000円 ドライバーの心理・生理機能と車輛の協調による次世代交通システムの構築（研究分担者）
2013年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 3,250,000円 「基盤研究(C)」課題番号25350483 交差点における視環境の評価と事故低減に資する視環境改善手法の検討（研究代表者）
2014年 3月～現在に至る	日本人間工学会(国内学会)日本人間工学会第55回大会優秀研究発表奨励賞 選考委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部経営工学科	職名 教授	氏名 窪谷 浩人	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
感想用紙の活用		2006年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：情報科学基礎) 講義終了時感想用紙を履修学生に配布し、講義内容についての感想(難易、進度)、質問、コメントを記入してもらうことを毎講義行っている。記入内容を元に、次回講義で、質問の回答や復習を行っている。明示的なフィードバックがあるので学生は積極的に記入しており、学生の理解を助けるための講義運営がやりやすくなっている。		
2 作成した教科書、教材					
情報科学基礎の講義資料		2011年 ～2013年	全82ページの講義資料を開講時に配布		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					

Asymptotic analysis of singular values of rectangular complex matrices in the Laguerre and fixed-trace ensembles	共著	2011年	J. of Phys. A: Math. Theor. 106	足立聡・戸田幹人・窪谷浩人	054101頁
Measuring dynamical randomness of quantum chaos by statistics of Schmidt eigenvalues (査読付)	共著	2013年 6月	Physical Review E 87	H. Kubotani, S. Adachi and M. Toda	062921頁
その他					
なし					

III 学会等および社会における主な活動

年月	内容
1991年 5月～現在に至る	日本天文学会(国内学会)会員
1994年 1月～現在に至る	日本物理学会(国内学会)会員
1995年 3月～現在に至る	日本惑星科学会(国内学会)会員
1995年 5月～現在に至る	情報処理学会会員
2009年 4月～2012年 3月	科学研究費補助金 3,300,000円 「基盤研究(C)」量子絡み合いにおける統計的普遍性の解明と量子推定・量子制御への応用(研究代表者)
2014年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 3,600,000円 「基盤(C)」動力学的に形成された量子絡み合いの統計的普遍性の広がりとその応用(研究代表者)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部経営工学科	職名 助手	氏名 西川 昌宏	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
移動車両の可変速経路 制御 (査読付)	共著	2010年 5月	計測自動制御学会論文集 46(5)	江上正, 天野桂介, 西川昌宏	306-308頁
EPSシステムの設計支 援用簡易ステアリング シミュレータの開発 (査 読付)	共著	2010年 9月	日本機械学会論文集C編 76(769)	小嶋英一, 王朝久, 西川昌宏, 金城秀一, 森野大介, 山崎徹	2308-2315頁

摩擦軽減を目指した座位移乗用トランスファーボードの開発 (査読付)	共著	2012年11月	日本福祉工学会誌 14(2)	高野倉雅人、川上勝、遠藤誠、 西川昌宏、武藤友和、石黒圭広	35-40頁
ステアリングシミュレータによる操舵フィーリング向上制御の検討 (査読付)	共著	2013年 2月	日本機械学会論文集 (C編) 79(798)	西川昌宏、森野大介、小嶋英一、 山崎徹	215-224頁
摩擦軽減を目指した座位移乗用トランスファーボード使用時の介助者の負担軽減効果について	共著	2013年 5月	日本福祉工学会誌 15(1)	高野倉雅人、川上勝、遠藤誠、 西川昌宏、武藤友和、石黒圭広	27-33頁
その他					
ロボットハンドによる柔らかい対象物の把持	共著	2010年 6月	ロボティクス・メカトロニクス講演会2010 2A1-F08	西川昌宏、蓮井慧、近藤謙次、 江上正	
宇宙エレベーター昇降実験機の開発	共著	2010年 6月	ロボティクス・メカトロニクス講演会2010 1A2-C03	池内亮、津國哲郎、西川昌宏、 江上正	
形態可変型ロボットハンドの自動着脱	共著	2010年 6月	ロボティクス・メカトロニクス講演会2010 2A1-A23	宗岡里樹、近藤謙次、西川昌宏、 江上正	
ステアリングシミュレータによる操舵フィーリング向上制御の検討	共著	2010年 9月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2010 322	森野大介、小嶋英一、西川昌宏、 山崎徹	
レーザレンジファインダを用いた移動体の位置推定	共著	2010年11月	第53回自動制御連合講演会 269	金井隼人、本多晃司、西川昌宏、 江上正	
ロボットハンドによる柔らかい対象物の把持制御	共著	2010年11月	第53回自動制御連合講演会 411	蓮井慧、近藤謙次、西川昌宏、 江上正	
予見仮想目標値を用いた3次元経路制御	共著	2010年11月	第53回自動制御連合講演会 410	福永彰彦、赤須達也、西川昌宏、 江上正	

移動車両の可変速経路制御	共著	2010年11月	第53回自動制御連合講演会 338	本多晃司, 天野桂介, 西川昌宏, 江上正	
すべりを考慮した車両の経路制御	共著	2011年 3月	第43回計測自動制御学会 北海道支部学術講演会 A17	本多晃司, 西川昌宏, 江上正	
レーザレンジファインダを用いた移動体の位置推定	共著	2011年 3月	第43回計測自動制御学会 北海道支部学術講演会 A18	金井隼人, 西川昌宏, 江上正	
宇宙エレベーター屋内実験装置の開発	共著	2011年 3月	第43回計測自動制御学会 北海道支部学術講演会 A10	津國哲郎, 西川昌宏, 江上正	
宇宙エレベーター昇降実験機の開発	共著	2011年 3月	第43回計測自動制御学会 北海道支部学術講演会 A9	池内亮, 西川昌宏, 江上正	
摩擦錐を考慮したロボットハンドによる把持	共著	2011年 3月	第43回計測自動制御学会 北海道支部学術講演会 A13	近藤謙次, 蓮井慧, 西川昌宏, 江上正	
経路制御手法によるNCフライス盤の制御	共著	2011年 3月	第43回計測自動制御学会 北海道支部学術講演会 A12	天野桂介, 西川昌宏, 江上正	
経路誤差平面内の制御を考慮した3次元経路制御	共著	2011年 3月	第43回計測自動制御学会 北海道支部学術講演会 A11	赤須達也, 福永彰彦, 西川昌宏, 江上正	
宇宙エレベーター昇降実験機の開発	共著	2011年 5月	ロボティクス・メカトロニクス講演会2011 1A2-L01	伊藤泰隆, 津国哲郎, 池内亮, 西川昌宏, 江上正	
形態可変型ロボットハンドの把持	共著	2011年 5月	ロボティクス・メカトロニクス講演会2011 1A1-I05	安藤啓太, 近藤謙次, 蓮井慧, 西川昌宏, 江上正	
経路誤差平面内の制御を考慮した3次元経路制御	共著	2011年 5月	第55回システム制御情報学会研究発表講演会 W22-5	東理清人, 赤須達也, 西川昌宏, 江上正	
ステアリングシミュレータによる操舵フィードバック向上制御の検討	共著	2011年 9月	日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2011 124	西川昌宏, 森野大介, 小嶋英一, 山崎徹	

摩擦錐の凸多角錐近似を用いたロボットハンドの指先力制御	共著	2011年11月	第54回自動制御連合講演会	近藤謙次, 蓮井慧, 西川昌宏, 江上正	2A101頁
摩擦錐の凸多角錐近似によるロボットハンドの指先力ベクトル制御	共著	2012年 3月	第44回計測自動制御学会北海道支部学術講演会 B6	近藤謙次, 蓮井慧, 安藤啓太, 西川昌宏, 江上 正	
ロボットハンドの指先力ベクトルの経路制御	共著	2012年 5月	ロボティクス・メカトロニクス講演会 1A2-I05	安藤啓太, 近藤謙次, 蓮井慧, 西川昌宏, 江上正	
形態可変型ロボットハンドの指の数および指先位置の最適化	共著	2013年 3月	第45回計測自動制御学会北海道支部学術講演会 A6	安藤啓太, 西川昌宏, 江上正	
多段階サプライチェーンのためのPOSシステム実験装置の開発	共著	2014年 5月	日本経営工学会 2014年春季大会予稿集 A1	西川昌宏, 北川雄三, 柴崎亜希子, 松丸正延	8-9頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1993年 4月～現在に至る		個人研究 インテリジェントシステム			
1993年 4月～現在に至る		個人研究 線形制御システム			
1993年 4月～現在に至る		個人研究 非線形制御システム			
1997年 9月～現在に至る		計測自動制御学会会員			
2000年11月～現在に至る		電気学会会員			
2001年 4月～2010年12月		IEEE(国際学会)会員			
2009年 3月～2011年 3月		高度センサ応用による人間中心システムの協同研究委員会 委員			
2011年 6月～2013年 5月		高度センサ応用による人・環境親和システムに関する協同研究委員会 委員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部経営工学科	職名 助教	氏名 高野倉 雅人	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
ディベートを活用した技術者倫理の実践的教育方法の開発		2006年10月 1日 ～現在に至る	(授業科目：技術者倫理) 学生が倫理的な問題を発見してそれを解決する実践的な能力の向上を目指して、ケースメソッドを基礎として、それにディベートを取り入れた演習を開発した。また授業後のアンケート調査から、その教育効果について分析することで、より高い教育効果が得られるように、演習内容を改善している。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2007年度後期工学部優秀講義賞		2008年 3月 3日 ～現在に至る	学生の意見調査を参考とした2007年度工学部優秀講義賞を受賞した。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
テクノロジー編 医療-福祉工学および生物-バイオメカニクス：力学の視点, 「かたち・機能のデザイン事典」, 高木隆司・他 (編), 分担執筆	単著	2011年 1月	(丸善)		368-369, 392-393頁

第1章 技術と倫理, 「経営工学のエッセンス—問題解決へのアプローチ」, 中島健一(編著), 分担執筆	単著	2012年 4月	(朝倉書店)		1-19頁
論文					
倫理的な問題解決力を高めるディベートの効果的な活用方法 (査読付)	共著	2011年10月	工学教育 59(5)	高野倉雅人, 林茂雄	58-63頁
摩擦軽減を目指した座位移乗用トランスファーボードの開発 (査読付)	共著	2012年11月	日本福祉工学会誌 14(2)	高野倉雅人, 川上勝, 遠藤誠, 西川昌宏, 武藤友和, 石黒圭広	35-40頁
摩擦軽減を目指した座位移乗用トランスファーボード使用時の介助者の負担軽減効果について	共著	2013年 5月	日本福祉工学会誌 (採録 決定)	高野倉雅人, 川上勝, 遠藤誠, 西川昌宏, 武藤友和, 石黒圭広	
Relationship between Ethical Decision-making and Risk Management of Engineers and Other Stakeholders - A Case Study of Failure Cases in Japan -	単著	2013年 7月	Journal of Japan Industrial Management Association 64(2E)		222-230頁
その他					
生体のふるえの特徴と福祉工学への応用	共著	2010年 5月	日本福祉工学会 12(1)	坂本和義, 苗鉄軍, 高野倉雅人, 真壁寿, 山路雄彦, 金子賢一, 関丙賛, 水戸和幸	2-14頁
多電極表面筋電図による筋活動評価の研究	共著	2010年 6月	働態研究の方法 (人類働 態学会)	水戸和幸, 金子賢一, 高野倉雅 人, 真壁寿, 坂本和義	173-176頁

小型シルバーカー開発のための車輪とハンドグリップの適正配置に関する実験的研究	共著	2010年 6月	日本人間工学会第51回大会講演集	高野倉雅人, 戸塚健一	256-257頁
歩行補助機能とユーザビリティを両立させるシルバーカーのデザイン	単著	2010年 6月	働態研究の方法(人類働態学会)		157-160頁
生理的振戦による生体機能の評価研究	共著	2010年 6月	働態研究の方法(人類働態学会)	坂本和義, 高野倉雅人, 真壁寿, 山路雄彦, 金子賢一, 水戸和幸	205-208頁
癒しの科学の研究法	共著	2010年 6月	働態研究の方法(人類働態学会)	坂本和義, 関丙賛, 水戸和幸, 高野倉雅人, 金子賢一	389-392頁
瞬目を指標とした視覚負担の評価に関する研究	共著	2010年 6月	働態研究の方法(人類働態学会)	金子賢一, 水戸和幸, 真壁寿, 高野倉雅人, 坂本和義	217-220頁
Theoretical Analysis for Miniaturization of Four-wheeled Walker with Safe Use on Normal Walking (査読付)	共著	2010年 8月	6th World Congress of Biomechanics	M. Takanokura, K. Totsuka	192頁
ディベートを活用した技術者倫理教育の成果と課題—問題分析・解決力を高める教育方法に対する考察—	共著	2010年 8月	日本工学教育協会第58回年次大会工学・工業教育研究講演会	高野倉雅人, 林茂雄	294-295頁
モノづくりの倫理—企業と社会との良好な関係—(連載 実務に役立つ最新生産マネジメント 第6回)	単著	2011年 2月	工場管理 57(2)		110-111頁
ベッド柵組込力センサを用いた病室での転落予防システムに関する研究	共著	2011年 5月	日本経営工学会平成23年度春季大会	高野倉雅人, 石黒卓, 川上勝	124-125頁

第6回World Congress of Biomechanicsに参加して-The Report of WCB2010 in Singapore	単著	2011年 6月	経営システム 21(2)		88-89頁
Upper-limb Orthoses Implemented with Air Dashpots for Suppression of Pathological Tremor in Daily Activities	共著	2011年 7月	23rd Congress of International Society of Biomechanics (ISB2011)	M. Takanokura, R. Sugahara, N. Miyake, K. Ishiguro, T. Muto, K. Sakamoto	
A New Concept for Ergonomic Design of a Transfer Board on Transfer Assistance in Nursing	共著	2011年 8月	21st International Conference on Production Research (ICPR21)	M. Takanokura, M. Endo, M. Kawakami	
病室でのベッドからの転落予防を目指した起き上がり検知アルゴリズムの開発	共著	2011年11月	第6回医療の質・安全学会学術集会抄録集	高野倉雅人, 横道直也, 舟橋由哉, 川上勝	174頁
ロールボックスパレット操作時のグリップ位置と主観評定値に関する一考察	共著	2011年12月	第41回日本人間工学会関東支部大会	大西明宏, 高野倉雅人, 菅間敦, 清水尚憲	114-116頁
組立作業における下肢の作業負担評価手法の検討	共著	2012年 5月	日本経営工学会平成24年度春季大会予稿集	榎本祐輝, 渡邊一衛, 寛宗徳, 野尻寛, 高野倉雅人, 宇津木英明, 村田裕之, 鈴木潤平, 中村昌弘	178-179頁
ロールボックスパレットの押し・引き時のグリップ幅と上肢筋負担との関係	共著	2012年 6月	日本人間工学会第53回大会講演集	高野倉雅人, 大西明宏, 菅間敦	464-465頁
ロールボックスパレットの押し・引き時のグリップ幅と上肢運動との関係	共著	2012年 6月	日本人間工学会第53回大会講演集	大西明宏, 菅間敦, 高野倉雅人	466-467頁

夜道での移動の安全性を高める車いす用ライト・反射板に関する研究	共著	2012年 6月	日本人間工学会第53回大会講演集	高野倉雅人, 及川翔麻	256-257頁
生理的振戦の評価と発生機序	単著	2012年 6月	第27回大脳基底核研究会抄録集		16-17頁
Comparison Between Cyclists and Non-cyclist on Lower Limb Muscle Activity During Pedaling: an EMG Investigation (査読付)	共著	2012年 7月	19th Congress of International Society of Electrophysiology and Kinesiology (ISEK2012)	K. Kaneko, K. Mito, H. Makabe, <u>M. Takanokura</u> , K. Sakamoto	352頁
How Does New Concept of Transfer Board Reduce Muscular Load of Health Care Workers During Transfer Assistance in Sitting Position? (査読付)	共著	2012年 7月	19th Congress of International Society of Electrophysiology and Kinesiology (ISEK2012)	<u>M. Takanokura</u> , M. Kawakami, K. Ishiguro, T. Muto	72頁
Relation between Handgrip Width and Muscular Load of Upper Limb in Handling of Roll Box Pallets (査読付)	共著	2012年 8月	44th International Conference of the Nordic Ergonomic Society (NES2012)	<u>M. Takanokura</u> , A. Ohnishi, A. Sugama	124頁
Relation between Handgrip Width and Upper Limb Motions While Pushing and Pulling Roll Box Pallets (査読付)	共著	2012年 8月	44th International Conference of the Nordic Ergonomic Society (NES2012)	A. Ohnishi, A. Sugama, <u>M. Takanokura</u>	123頁

イクメン・ウーマンのためのライフログ情報活用による育児サービスの研究に向けて	共著	2012年11月	日本経営工学会平成24年度秋季研究大会予稿集	高野倉雅人, 滝聖子, 山田哲男	296-297頁
組立作業における作業姿勢に基づいた作業負担の定量化	共著	2012年11月	日本経営工学会平成24年度秋季研究大会予稿集	榎本祐輝, 渡邊一衛, 笈宗徳, 野尻寛, 高野倉雅人, 宇津木英明, 村田裕之, 鈴木潤平, 中村昌弘	72-73頁
A Posture-Based Method for Ergonomic Risk Assessment on Assembly Works	共著	2013年 8月	45th International Conference of the Nordic Ergonomic Society (NES2013)	M. Takanokura, Yuki Enomoto, Ichie Watanabe, Munenori Kakehi, Hiroshi Nojiri, Hiroyuki Murata, Junpei Suzuki, Hideaki Utsuki, Masahiro Nakamura	
Kinematic Analysis of Pushing and Turning Tasks to Evaluate Appropriate Interhandle Distance on Roll-box Pallets	共著	2013年 8月	45th International Conference of the Nordic Ergonomic Society (NES2013)	Masato Takanokura, Akihiro Ohnishi, Atsushi Sugama	
ヘルスケアシステム工学と育児のサービスおよび研究に関する国際現地調査	共著	2013年11月	日本経営工学会平成25年度秋季研究大会予稿集	高野倉雅人, 山田哲男	130-131頁
ロールボックスパレットの横方向への操作とハンドル幅の関係—円弧状に90度移動させた場合を対象として—	共著	2013年11月	第34回バイオメカニズム学術講演会	大西明宏, 高野倉雅人, 菅間敦	95-96頁
転倒・転落予防を目指したベッド上および病室内での動作検出システムの開発—感圧センサと赤外線センサの利用—	共著	2013年11月	第8回医療の質・安全学会学術集会	高野倉雅人, 上原涼太郎, 三宅将文, 西川昌宏, 川上 勝	206頁

ライフログによるイクメンの活動と育児に伴う作業の分析法	共著	2014年 5月	日本経営工学会平成26年度春季大会予稿集	佐藤翼, 山田哲男, <u>高野倉雅人</u> , 滝聖子	84-85頁
転落予防を目指したベッド上および病室内での動作検出システムの製作	共著	2014年 5月	日本経営工学会平成26年度春季大会予稿集	三宅将文, 上原涼太郎, <u>高野倉雅人</u> , 松井正之	112-113頁
Energy Management with Battery System for Smart City	共著	2014年 7月	33rd Chinese Control Conference	<u>M. Takanokura</u> , M. Matsui, H. Tang	8200-8203頁
Identification of High-Intensity Physical Activities during Child Rearing Using a Triaxial Accelerometer	共著	2014年 7月	5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics (AHFE2014)	<u>M. Takanokura</u> , K. Ariizumil, N. Imai, S. Taki, T. Yamada	5907-5916頁
Optimal Energy Storage System Based on Reinforcement Learning (査読付)	共著	2014年 7月	33rd Chinese Control Conference	J. Liu, H. Tang, M. Matsui, <u>M. Takanokura</u> , L. Zhou, X. Gao	8216-8221頁
Suitable Interhandle Distance on a Roll Box Pallet during Turning Task	共著	2014年 7月	5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics (AHFE2014)	A. Ohnishi, <u>M. Takanokura</u> , A. Sugama	6674-6679頁
Real Time Measurement and Analysis of Iku-men Activities for Childcare Service Innovation and Challenge	共著	2014年11月	1st East Asia Workshop on Industrial Engineering	T. Yamada, S. Sakurada, <u>M. Takanokura</u> , S. Taki, T. Sato	290頁

ロールボックスパレット(RB)作業経験者が評価する適切なハンドル幅—RBPを円弧状移動させた時の加速度データをもとにした分析—	共著	2014年11月	第35回バイオメカニズム学術講演会	大西明宏, 高野倉雅人, 菅間敦	17-18頁
看護マネジメントシステムのサービスの質向上と効率化の提案	共著	2014年11月	日本経営工学会2014年秋季大会予稿集	三宅将文, 高野倉雅人, 松井正之	240-241頁
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1996年 4月～現在に至る		個人研究 生体信号を用いた神経・筋・骨格システムの機能評価			
1996年 4月～現在に至る		日本人間工学会(国内学会)会員			
2001年 4月～現在に至る		バイオメカニズム学会(国内学会)会員			
2001年 4月～2012年 3月		日本生体医工学会(国内学会)会員			
2001年 4月～現在に至る		日本経営工学会(国内学会)会員			
2002年 1月～現在に至る		International Society of Biomechanics(国際学会)会員			
2003年 1月～2010年12月		IEEE/EMBS(国際学会)会員			
2003年 4月～現在に至る		国内共同研究 (自治医科大学, 東京工科大学)人間工学にもとづく生活支援用具・看護用具の人間中心設計			
2003年 4月～現在に至る		日本工学教育協会(国内学会)会員			
2005年 4月～現在に至る		ライフサポート学会(国内学会)会員			
2005年 4月～現在に至る		日本生活支援工学会(国内学会)会員			
2008年 4月～現在に至る		日本福祉工学会(国内学会)会員			
2008年10月～現在に至る		日本感性工学会(国内学会)会員			
2010年 4月～現在に至る		国内共同研究 (東京工科大学, 電気通信大学)日常生活動作の支援を目指した身体装具の開発			
2010年 4月～現在に至る		国内共同研究 (自治医科大学)看護・介護現場での転落事故予防システムの開発			
2011年 4月～現在に至る		国内共同研究 (青山学院大学, 成蹊大学, (株)サンデン)生産性向上のための作業システム設計			
2011年 4月～2011年12月		(財)製品安全協会・乳幼児用移動防止さく・SGマーク認定基準改正専門部会 委員・分科会長			
2011年 6月～現在に至る		日本工学教育協会 技術者倫理調査研究委員会 委員			
2011年 7月～2013年 5月		日本経営工学会 研究委員会 委員			
2012年 3月～2012年 9月		一般財団法人製品安全協会・ショッピングカート・SG基準改正専門部会 委員・分科会長			
2013年 4月～現在に至る		バイオメカニズム学会 編集委員会 委員・委員会幹事			
2013年 4月～現在に至る		科学研究費補助金 2,900,000円 「挑戦的萌芽研究」ライフログ情報を活用したイクメン・ウーマンのための育児サービス・イノベーション (研究代表者)			
2014年 1月～現在に至る		IIE (Institute of Industrial Engineers)(国際学会)会員			
2014年 1月～現在に至る		INFORMS (The Institute for Operations Research and the Management Sciences)(国際学会)会員			

2014年 3月～現在に至る	電気学会倫理委員会教育ワーキンググループ 委員
2014年 4月～現在に至る	競争的資金等の外部資金による研究（自治医科大学，東京工科大学，千葉工業大学，電気通信大学）ヘルスケア・デリバリーシステムの構築とマネジメント

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部経営工学科	職名 教授	氏名 中島 健一	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
サプライチェーンマネジメント入門 QCDE戦略と手法		2008年 9月 ～現在に至る			
新版 生産管理システム		2012年 1月 ～現在に至る			
経営工学のエッセンス		2012年 4月 ～現在に至る			
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
大阪工業大学大学院工学研究科経営工学専攻博士前期課程 研究指導補助担当		2000年 4月 ～現在に至る			
大阪工業大学大学院工学研究科経営工学専攻博士後期課程 研究指導補助担当		2002年 4月 ～現在に至る			
大阪工業大学ものづくりマネジメントセンターシニアディレクター		2006年 4月 ～現在に至る			
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
新版 生産管理システム	共著	2012年 1月	(朝倉書店)	田村隆善、大野勝久、中島健一、 小島貢利	

経営工学のエッセンス		2012年 4月	(朝倉書店)		
Reverse Supply Chains: Issues and Analysis	共著	2013年 1月	(CRC Press Taylor& Francis Group)	<u>Kenichi Nakashima</u> and Surendra M. Gupta	
論文					
Performance evaluation of a Multi-part JIT production system (査読付)	共著	2010年10月	International Journal of Biomedical Soft Computing and Human Sciences 15(1)		41-45頁
Using Neural Networks to Solve a Disassembly-to-Order Problem (査読付)	共著	2010年10月	International Journal of Biomedical Soft Computing and Human Sciences 15(1)	Surendra M. Gupta, Prasit Imtanavanich and <u>Kenichi Nakashima</u>	67-71頁
Coping with disassembly yield uncertainty in remanufacturing using sensor embedded products (査読付)	共著	2011年12月	Journal of Remanufacturing 2011, 1:7doi:10.1186/2210-4690-1-7	M. A Ilgin, S. M. Gupta and <u>K. Nakashima</u>	
Management of a Disassembly Line using Two Types of Kanbans (査読付)	共著	2012年	International Journal of Supply Chain Management 1(3)	<u>K. Nakashima</u> , Kojima M. S. M. Gupta	11-19頁
Enhancing value in reverse supply chains by sorting before product recovery (査読付)	共著	2012年 3月	Production Planning&Control 23	Arvinder P. S. Loomba and <u>Kenichi Nakashima</u>	205-215頁

A study on the risk management of multi Kanban System in a closed loop supply chain (査読付)	共著	2012年 9月	International Journal of Production Economics 139	<u>K. Nakashima</u> and S. M. Gupta	65-68頁
A design for closed loop manufacturing systems with consideration for parts quality (査読付)	単著	2012年12月	Innovation and Supply Chain Management 6(4)		151-156頁
Parts quality-based priority policy in remanufacturing environments (査読付)	共著	2013年	Journal of Advances in Management Research 10(2)	<u>Kenichi Nakashima</u> and Arvinder P. S. Loomba	162-175頁
A Study on the Semiconductor Supply Chain Management in Automotive Industry (査読付)	共著	2013年 7月	Journal of Japan Industrial Management Association 64(2E)	K. Nakashima, and T. Sornmanapong,	284-292頁
その他					
<招待講演> Japanese Production and Operations Management System	単著	2012年10月	神奈川大学・アストラハン大学国際学術シンポジウム		

III 学会等および社会における主な活動

年月	内容
1995年10月～現在に至る	オフィス・オートメーション学会 (現 日本情報経営学会) (国内学会) 会員
1995年10月～現在に至る	(社) 日本オペレーションズ・リサーチ学会(国内学会) 平成8年度秋季研究発表大会実行委員
1995年10月～現在に至る	(社) 日本経営工学会(国内学会) 第14回経営工学国際会議特別委員会委員
1996年 5月～現在に至る	第14回経営工学国際会議 (ICPR) 事務局幹事・総務委員会委員
1997年 4月～現在に至る	(社) 日本オペレーションズ・リサーチ学会(国内学会) 関西支部研究部会「OR若手の会」 幹事
1997年 5月～現在に至る	オフィス・オートメーション学会 (現 日本情報経営学会) (国内学会) 第36回全国大会実行委員
1997年 6月～現在に至る	(社) 日本経営工学会(国内学会) 関西地区定例セミナー副査

1997年12月～現在に至る	日本生産管理学会(国内学会)第7回全国大会実行委員
1999年 4月～現在に至る	日本生産管理学会(国内学会)関西支部監査役
1999年 4月～現在に至る	(社)日本品質管理学会(国内学会)第29回年次大会実行委員
1999年 5月～現在に至る	(社)日本経営工学会(国内学会)JIS生産管理用語改訂小委員会委員
1999年 7月～現在に至る	オフィス・オートメーション学会(現 日本情報経営学会)(国内学会)第40回全国大会実行委員
1999年 8月～現在に至る	日本経営システム学会(国内学会)第23回全国大会実行委員
1999年 9月～現在に至る	(社)日本経営工学会(国内学会)第25期関西企画小委員会委員
1999年10月～現在に至る	オフィス・オートメーション学会(現 日本情報経営学会)(国内学会)編集委員
2000年 4月～現在に至る	(社)日本オペレーションズ・リサーチ学会(国内学会)「循環型システムとOR」研究部会幹事
2000年 7月～現在に至る	(社)日本経営工学会(国内学会)関西地区定例セミナー副査
2000年 7月～現在に至る	(社)日本経営工学会(国内学会)関西支部運営委員
2000年10月～現在に至る	(社)日本品質管理学会(国内学会)第30年度代議員
2001年 1月～現在に至る	オフィス・オートメーション学会(現 日本情報経営学会)(国内学会)第8期編集委員会編集委員・本部担当幹事
2001年 6月～現在に至る	日本経営システム学会(国内学会)関西支部運営委員
2001年 7月～現在に至る	生産管理学会(国内学会)第14回全国大会実行委員
2001年10月～現在に至る	(社)日本品質管理学会(国内学会)第31～32年度代議員
2002年 4月～現在に至る	(社)日本オペレーションズ・リサーチ学会(国内学会)関西支部運営委員
2002年 4月～現在に至る	(社)日本オペレーションズ・リサーチ学会(国内学会)「マネジメントサイエンスのニューフロンティア」研究部会幹事
2002年 6月～現在に至る	日本経営システム学会(国内学会)第29回全国研究発表大会委員
2002年 6月～現在に至る	(社)日本経営工学会(国内学会)関西支部運営委員
2003年 1月～現在に至る	(社)日本品質管理学会(国内学会)第32年度「マネジメントの品質向上とQC手法」研究部会幹事
2003年 5月～現在に至る	日本経営システム学会(国内学会)関西支部運営委員
2003年 5月～現在に至る	(社)日本経営工学会(国内学会)「マネジメントサイエンスのニューフロンティア」研究部会幹事
2003年11月～現在に至る	(社)日本品質管理学会(国内学会)第33～34年度代議員
2004年 1月～現在に至る	(社)日本品質管理学会(国内学会)第33年度「マネジメントの品質向上とQC手法」研究部会幹事
2004年 2月～現在に至る	日本セキュリティ・マネジメント学会(国内学会)学会活性化ワーキンググループW1メンバー
2004年 4月～現在に至る	日本セキュリティ・マネジメント学会(国内学会)第18回全国大会実行委員
2004年 4月～現在に至る	(社)日本オペレーションズ・リサーチ学会(国内学会)関西支部監事・「環境マネジメントとOR」研究部会幹事
2004年 5月～現在に至る	オフィス・オートメーション学会(現 日本情報経営学会)(国内学会)第8期編集委員会委員、本部担当幹事、大会委員会委員
2004年 5月～現在に至る	日本生産管理学会(国内学会)関西支部 研究・出版委員会委員
2004年 6月～現在に至る	(社)日本経営工学会(国内学会)関西支部運営委員
2004年 8月～現在に至る	(社)日本オペレーションズ・リサーチ学会(国内学会)平成17年度秋季研究発表大会実行委員
2005年 4月～現在に至る	日本経営システム学会(国内学会)関西支部運営委員
2005年 5月～現在に至る	日本経営システム学会(国内学会)第13期渉外委員会委員
2006年 6月～現在に至る	(社)日本経営工学会(国内学会)関西支部運営委員

2007年 4月～2011年 3月	科学研究費補助金 4,550,000円 「基盤研究 (C)」 持続可能な環境配慮型グローバルマネジメントシステムに関する研究 (研究代表者)
2007年 4月～2011年 3月	競争的資金等の外部資金による研究 (日本学術振興会 科学研究費基盤研究 (C) 研究代表) 4,550,000円 持続可能な環境配慮型グローバルマネジメントシステムに関する研究
2007年 5月～現在に至る	(社) 私立大学情報教育協会 経営工学FD/IT活用研究委員会委員
2009年 5月～2011年 5月	(社) 日本経営工学会(国内学会) 第30期研究委員会委員長、国際渉外委員会委員、代議員
2010年 3月～2011年12月	Eco Design 2011 実行委員会委員
2010年 4月～2012年 3月	科学研究費補助金 1,000,000円 「基盤研究 (C)」 中国の自動車産業における環境配慮型生産方式に関する研究 (研究分担者)
2010年 4月～2013年 3月	競争的資金等の外部資金による研究 (日本学術振興会 科学研究費基盤研究 (C) 研究分担者) 中国の自動車産業における環境配慮型生産方式に関する研究
2010年 7月～現在に至る	中央職業能力開発協会 ビジネスキャリア検定 試験委員
2011年 1月～現在に至る	高圧ガス保安協会 環境審査評価委員会委員 環境審査評価委員会委員
2011年 4月～2013年 3月	科学研究費補助金 200,000円 「基盤研究 (C)」 クラウド時代の次世代型業績評価システムの研究開発 (連携研究者)
2011年 4月～2015年 3月	科学研究費補助金 4,200,000円 「基盤研究 (C)」 グローバル化時代における課題解決型ジャストインタイム・イノベーションに関する研究 (研究代表者)
2011年 4月～2013年 3月	競争的資金等の外部資金による研究 (日本学術振興会 科学研究費基盤研究 (C) 連携研究者) クラウド時代の次世代型業績評価システムの研究開発
2011年 4月～2015年 3月	競争的資金等の外部資金による研究 (科学研究費 基盤研究 (C) 研究代表) グローバル化時代における課題解決型ジャストインタイム・イノベーションに関する研究
2011年 5月～2013年 5月	(公社) 日本経営工学会(国内学会) 会員
2011年 5月～2013年 5月	(公社) 日本経営工学会(国内学会) 第31期理事 (研究担当)
2012年 7月～2012年 8月	その他の補助金・助成金 (日本学術振興会 外国人招へい研究者 (短期) 補助金) 450,000円 「平成24年度 外国人招へい研究者 (短期) 補助金」 環境配慮型リバース・サプライチェーンマネジメントシステムに関する研究 (研究代表者)
2013年 4月～2015年 3月	特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合(国内学会) 理事
2013年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 400,000円 「基盤研究 (A)」 SC途絶リスクマネジメントの方法論およびシステム構築に関する研究 (研究分担者)
2013年 5月～2015年 3月	特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合(国内学会) 理事
2013年10月～現在に至る	(一社) 日本品質管理学会(国内学会) 会員
2013年10月～現在に至る	(一社) 日本品質管理学会(国内学会) 第43年度理事 (会員・サービス担当)
2014年 4月～現在に至る	競争的資金等の外部資金による研究 (科学研究費 基盤研究 (A) 研究分担者) 400,000円 SC途絶リスクマネジメントの方法論およびシステム構築に関する研究
2014年 6月～現在に至る	(一財) 日本規格協会 生産管理研究会委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部経営工学科	職名 教授	氏名 松丸 正延	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
財務分析のクオリティ & トランクイリティに よる財務分析のクオリ ティ評価	単著	2011年 9月	経営品質科学の研究(中 央経済社)		275-286頁
経営システム学	単著	2011年12月	経営システム学への招待 (日本評論社)		1-12頁
論文					
外国為替レートにおけ る動的カオス解析の研 究(査読付)	共著	2010年10月	日本経営工学会論文誌(日本経営工学会) 52(4)	亀川博史、松丸正延	239-255頁

Demand and price forecasting models for strategic and planning decisions in a supply chain (査読付)	共著	2011年 3月	東海大学情報通信学部紀要 3(2)	Vichuda Wattanarat, Phounsakda Phimpavong, Masanobu Matsumaru	37-42頁
Valuing Supply Contract under Uncertainty (査読付)	共著	2011年 8月	日本経営工学会誌 62(3)	Phimpavong Phounsakda, Masanobu Matsumaru	145-152頁
サプライチェーンネットワークにおける業者選択と利益最大化モデル	共著	2011年12月	神奈川大学工学研究所所報(神奈川大学工学研究所) 34	©松丸 正延, 中島 健一	6-11頁
リアルオプションアプローチによる部品調達評価 (査読付)	共著	2012年11月	日本経営システム学会誌(日本経営システム学会) 29(2)	野口真希、松丸正延、菊池浩明、山下洋史	129-138頁
品質・環境ISOとTQM活動に基づくリーン生産マネジメント	共著	2012年11月	神奈川大学工学研究所所報(神奈川大学工学研究所) 35	中島 健一, 松丸 正延, 松井 正之	56-65頁
評価者相を持つメンバーシップ値のトランクイリティ (査読付)	共著	2012年11月	日本経営システム学会誌第29巻(2)	臧巍、山下洋史、松丸正延、大野高裕	19-25頁
A Study on the Information Sharing in Supply Chain Network Based on Information Entropy	共著	2013年 8月	日本経営工学会論文誌(日本経営工学会) 64(2E)	Nyunho JUNG, Masanobu MATSUMARU	317-324頁
持続可能なリーン生産・物流マネジメント Lean manufacturing and logistics management for sustainability	共著	2013年11月	神奈川大学工学研究所所報・神奈川大学工学研究所所報 36	中島 健一、松丸 正延、松井 正之	p. 70-76頁

Software Measure in Cyber-attacks on Production Control System (査読付)	共著	2014年 9月	Software Measure in Cyber-attacks on Production Control System(Computers&Industrial Engineering) 76	Takaaki Kawanaka, Masanobu Matsumaru, Shuichi Rokugawa	378-386頁
long-term digital storage by switching strage medium (査読付)	共著	2014年12月	International Journal of the Japan Association for ManagementJapan Systems(the Japan Association for Management Systems) 6(1)	Takaaki Kawanaka, Masanobu Matsumaru, Shuichi Rokugawa	15-24頁
その他					
ラフ集合を用いた選好の研究	共同	2010年 6月	第44回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	我妻裕子、根木佐一、野口真希、松丸正延	
生産管理における低エネルギーと高エントロピーの調和モデル	共同	2010年 6月	第44回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	山下洋史, 臧巍, 村山賢哉, 松丸正延,	
経営システム研究における複数研究領域の融合	共同	2010年 6月	第44回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	松丸正延、山下洋史	
需要変動と受注残値引きを考慮した原価低減の在庫モデルの研究	共同	2010年 6月	第44回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	クラウイン ルーサーゴンシリ、ピンパボン プンサクダ、松丸正延、山下洋史	
オープン・システムとしての資源循環の概念モデル	共同	2010年11月	第45回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	山下洋史、村山賢哉, 松丸 正延	
ファジィエントロピーを用いたサプライチェーンネットワーク均衡モデル	共同	2010年11月	第45回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	野口真希、松丸正延、山下洋史	

ベンダー企業とバイヤー企業の統合在庫システムにおけるコスト低減モデル	共同	2010年11月	第45回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	ルーサーゴンシリ クラウイン、ピンパボン プンサクダ、松丸正延	
環境志向型行動における「社会的受容性」の分析	共同	2010年11月	第45回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	村山賢哉、山下洋史、松丸正延	
評価者相を持つメンバーシップ値のトランクイリティ	共同	2010年11月	第45回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	臧巍、山下洋史、松丸正延、大野高裕	
コミュニケーション・ネットワークの情報伝達エントロピーと情報分布エントロピーに関する研究	共同	2011年 5月	第46回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	鄭年皓、山下洋史、松丸正延	
ポアソンジャンプとブラウン運動を用いた操業停止を考慮したリアルオプションモデル	共同	2011年 5月	第46回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	永井裕、野口真希、松丸正延、山下洋史	
新製品の発売時期における品不足戦略に関する研究	共同	2011年 5月	第46回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	鄭年皓、権善喜、山下洋史、松丸正延	
経営システム研究の課題と今後の方向性	共同	2011年 5月	第46回日本経営システム学会30周年記念シンポジウム	松丸正延、能勢豊一、常田稔、山下洋史	
製品の使用による価値の消費と情報エントロピー	共同	2011年 5月	第46回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	山下洋史、臧巍、村山賢哉、松丸正延	
A Methodology on the Eigen value Solutions of Channel Matrix in Communication Networks Focused on "Gatekeeper" (査読付)	共著	2011年 9月	International Conference on Business & Information 2011 (International Conference on Business & Information 2011)	Nyunho Jung, Masanobu Matsumaru	CD-ROM頁

Model Construction in Supply Chain Management (Keynote Speech) (査読付)	単著	2011年 9月	International Conference on Business & Information 2011 (International Conference on Business & Information 2011)	©松丸正延	
Vendor Selection Model on the Robot Production Systems (査読付)	共著	2011年 9月	International Conference on Business & Information 2011 (International Conference on Business & Information 2011)	©Masanobu Matsumaru, Maki Noguchi, Hiroshi Yamashita	CD-ROM頁
オプションを用いた調達契約の研究	共同	2011年11月	平成21年度日本経営工学会	野口真希、松丸正延、菊池浩明	
情報の伝達ロスを考慮したコミュニケーションネットワークに関する研究	共同	2011年11月	平成21年度日本経営工学会	鄭年皓、山下洋史、臧巍、金子勝一、松丸正延	
コミュニケーション・ネットワークにおける低エネルギーと高エンタロピーの一因子情報路モデル	共同	2011年12月	第47回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	鄭年皓、権善喜、臧巍、山下洋史、松丸正延	
投資額制約がある場合の調達・生産計画の研究	共同	2011年12月	第47回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	野口真希、松丸正延、菊池浩明、山下洋史	
摂取率を考慮した資源循環の領域推移確率モデル	共同	2012年12月	第49回日本経営システム学会全国研究発表大会	鄭年皓、山下洋史、金子勝一、松丸正延	
生産と配送の時間制約下におけるサプライチェーン選択	共同	2012年12月	第49回日本経営システム学会全国研究発表大会	ピンパボン プンサクダ、松丸正延、岡田毅史	
多段階サプライチェーンのためのPOSシステム実験装置の開発	共同	2013年 5月	第52回日本経営工学会全国研究発表大会講演論文集	西川昌宏、北川雄三、柴崎亜希子、松丸正延	

消費者の効用を考慮した製品の最適モデルの提案	共同	2013年 5月	第52回日本経営工学会全国研究発表大会講演論文集	宮川祐介、松丸正延	
コストを考慮したサプライヤー選択	共同	2013年 6月	第50回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	藤野佑輔、松丸正延、ピンパボン プンサクダ	
為替相場変動下における生産量予約契約の研究	共同	2013年 6月	第50回日本経営システム学会全国研究発表大会	野口真希、松丸正延、菊池浩明	
記憶媒体の切り替えを考慮した情報の長期保存に関する研究	共同	2013年 6月	第50回全国研究発表大会日本経営システム学会講演論文集	川中 孝章、松丸正延、六川修一	
Information Sharing and Cost Reduction in Supply Chain Network (査読付)	共著	2013年 8月	the 9th korea-japan workshop on sustainable management systems in service industry(The 9th Korea - Japan Workshop on Sustainable Management Systems in Service Industry)	nyunho jung, masanobu matsumaru, sunghoon lee , takaaki kawanaka	CD-ROM頁
3段階サプライチェーンにおけるコスト最小化	共同	2013年12月	第51回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	藤野佑輔、松丸正延	
多段階サプライチェーンにおけるサプライヤー選択のための多目的線形モデル	共同	2014年 6月	第52回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	藤野佑輔、松丸正延	
遺伝的アルゴリズムを用いた倒産判別	共同	2014年 6月	第52回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集	小鹿雅弘、松丸正延	

Bankruptcy Discrimination using Genetic Algorithm and Multivariate Discriminant Analysis (査読付)	共著	2014年 8月	the 10th korea-japan workshop on sustainable management systems in service industry(the 10th korea-japan workshop on sustainable management systems in service industry)	masahiro koshika masanobu matsumaru	
Bankruptcy Prediction Model using Genetic Algorithm and Multivariate Discriminant Analysis (査読付)	共著	2014年 9月	International Conference on Business & Information 2014	Masahiro Koshika, Masanobu Matsumaru, Shoichi Kaneko, Takaaki Kawanaka	
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2006年 6月～2010年 5月		社団法人日本経営工学会(国内学会)理事			
2007年 4月～2012年 3月		科学研究費補助金 74,000,000円 「文部科学省オープンリサーチセンター整備事業」クオリティ志向型人材育成とスマート・ビジネス・コラボレーションー経営品質科学に関する研究(研究分担者)			
2009年 5月～2013年 5月		日本経営システム学会(国内学会)会員			
2009年 5月～2013年 5月		日本経営システム学会(国内学会)会長			
2010年 6月～2012年 5月		公益社団法人日本経営工学会(国内学会)監事			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部経営工学科	職名 教授	氏名 松井 正之	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
Manufacturing Engineering	共著	2011年	(NOVA)	A. B. Savarese <u>Editor</u>	
Progress in Economics Research, Vol. 25	共著	2012年	(NOVA)	A. Tavidze <u>Editor</u>	
Manufacturing and Service Enterprise with Risks II: The Physics and Economics of Management	単著	2014年 3月	(Springer) 全8章、付録2 154頁		

論文					
松井の式体系とその周辺	単著	2011年12月	神奈川大学工学研究所所報 (第34号)		2-5頁
Economic Station-Centered Network and Invisible Collaboration: A Cyclic vs Semi-Cyclic View (査読付)	単著	2012年 8月	Theoretical Economics Letters 2		344-349頁
A Mathematical Analysis on Flexible Switch Strategy in theeeee Limited-Cycle with Multiple Periods (査読付)	共著	2013年	Innovation and Supply Chain Management 7(4)	Jing Sun, Xianda Kong, Hisashi Yamamoto, Masayuki Matsui	125-130頁
効率対ムダ世界におけるカメレオン基準とメジアン・コントロール法	単著	2013年11月	神奈川大学工学研究所所報 (第36号)		40-45頁
An Enterprise-Aided Theory and Logic for Real-Time Management (査読付)	単著	2013年12月	International Journal of Production Research 51(23-24)		7308-7312頁
The Invisible Body-Balancing Economics: A Medium Approach (査読付)	単著	2015年 1月	Theoretical Economics Letters 5(1)		66-73頁
その他					

需給系マネジメント： 利益最大化、ロジック とポストERP/SCM ；日本生産管理学会関 東支部		2014年 6月	(法政大学経営大学院 (東京))		
I0行列系研究：ペア行列の一般化とその展開問題	単独	2014年11月	第5回横幹連合総合シンポジウム(東京大学)		
工場理学の発展：ジョブシップ(FS)とライン生産(OE)の双対関係(松井の式)	単独	2014年11月	2014年秋季大会予稿集		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1968年 4月～現在に至る		日本経営工学会(国内学会)会員			
1970年11月～現在に至る		日本オペレーションズ・リサーチ学会(国内学会)会員			
1976年 4月～現在に至る		Institute of Industrial Engineers(IIE)(国内学会)会員			
2007年 8月～現在に至る		International Foundation for Production Research (IFPR) 理事会理事			
2007年 8月～現在に至る		国際経営工学連盟 (IFPR) (国内学会)理事			
2010年 1月～現在に至る		横幹連合「経営高度化調査研究委員会」(国内学会)委員長			
2011年 4月～現在に至る		個人研究 企業の3M&I系マネジメントに関する研究、クラウド時代のリアルタイム経営法の開発			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部経営工学科	職名 教授	氏名 中易 秀敏	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Human factor on driver and human cognitive reliability by driving simulator	共著	2010年11月	Selected papers of the PPCOE, Taylor&Francis	Hidetoshi Nakayasu, Masao Nakagawa, Tetsuya Miyoshi	

An emergency aircraft evacuation simulation considering passenger emotions (査読付)	共著	2012年 4月	Computers & Industrial Engineering 62	Tetsuya Miyoshi, <u>Hidetoshi Nakayasu</u> , Yuki Ueno, Patric Patterson	746-754頁
Analysis of Driver Perceptions and Behavior When Driving in an Unfamiliar Traffic Regulation (査読付)	共著	2012年 5月	Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics 15(8)	<u>Hidetoshi Nakayasu</u> , Tetsuya Miyoshi, Nobuhiko Kondo, Hirokazu Aoki and Patrick Patterson	1038-10頁
Human Cognitive Reliability Analysis on Drivers Using Simulator Experiments (査読付)	共著	2012年 5月	Journal of Japan Industrial Management Association 16	<u>Hidetoshi Nakayasu</u> , Masao Nakagawa , Tetsuya Miyoshi ³ and Patrick Patterson	278-285頁
その他					
なし					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1997年10月～現在に至る		日本品質管理学会(国内学会)会員			
2000年 5月～現在に至る		日本経営工学会(国内学会)会員			
2009年 6月～現在に至る		日本材料学会(国内学会)会員			
2009年 6月～2012年 5月		日本材料学会(国内学会)信頼性工学部門委員会委員長			
2009年 6月～現在に至る		日本材料学会信頼性工学部門委員会 委員長			
2012年 4月～現在に至る		個人研究 ドライバーの生体情報分析と車輛運動分析に基づくリスク評価の実 験的研究			